



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 村田 隆 (TEL) 03-5962-7777

四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日 配当支払開始予定日 平成24年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日~平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	27,388	6.0	1,594	67.5	1,531	63.7	772	55.1
24年3月期第2四半期	25,846	1.6	952	△37.7	935	△37.3	498	△39.4

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 775百万円(61.1%) 24年3月期第2四半期 481百万円(△35.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	54.39	—
24年3月期第2四半期	35.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	32,557	13,983	43.0
24年3月期	30,404	13,492	44.4

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 13,983百万円 24年3月期 13,492百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年3月期	—	10.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,400	2.9	2,650	23.6	2,500	20.6	1,280	24.3	90.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	14,211,000株	24年3月期	14,211,000株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	91株	24年3月期	91株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	14,210,909株	24年3月期2Q	14,210,909株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・当社は、以下のとおり機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した決算説明資料等については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成24年11月21日(水)・・・機関投資家・アナリスト向け第2四半期決算説明会(東京)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日）におけるわが国の経済は、海外景気の減速や円高基調の継続により輸出に伸び悩みが見られたことや企業業績についても厳しい収益環境にあることなど、景気回復のペースに足踏み状態の兆しが見られております。しかしながら、景気や物価の下振れリスク等を回避する為、日本銀行は9月19日に追加の金融緩和を決定しました。今後も更なる金融緩和を実施することが期待されております。また震災からの復興需要が景気の下支えとなることが見込まれております。

このような事業環境の中、さらなる飛躍を目指すため当社グループにおきましては、当連結会計年度を初年度とする『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』の策定を行い、「市場演出型企業としての成長戦略」を指針とし、新しいサラダの領域の確立、「市場演出型企業」としての存在感アップ、グローバル企業への成長を目指してまいります。また、この指針を実現させる為、以下の5つの成長戦略を掲げております。

① サラダカフェブランドの推進・浸透

サラダカフェのショップ及びウェブを活用して、様々な食シーンの演出や提案等の発信を積極的に行うことにより、市場演出型企業としての存在感をアップさせてまいります。あわせてサラダカフェブランドの更なる浸透を図ってまいります。

② サラダ料理・世界のソースの情報発信

当社では「サラダ料理」を、野菜を軸として、あらゆる食材（肉類・魚介類・乳加工品）とあらゆるソースとの調和を図り、進化発展させた主菜となるサラダと定義しております。また世界各国の特徴あるソースを商品づくりに活かした「世界のソース」シリーズを提案しており、サラダ料理とあわせて世界に向けて情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践してまいります。

③ 事業領域の拡大 タマゴ/ポテト産地の育成～製品までのプロとなる

当社の強みであるタマゴやポテトに関する知識・ノウハウを更に掘り下げ、優位性を高めてまいります。タマゴ加工品については、その領域を原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで拡げ、すべてに一貫したシステムを構築します。そのうえで各々の工程で生み出された、原料・素材に近い商品の販売機会を拡大してまいります。また生産者との取り組み強化や新しい産地の開拓、新しい品種の導入等も進めてまいります。

④ グローバル企業となる

中国に続く、海外展開の2か国目としてインドネシアで事業展開を進めてまいります。また輸出の拡大や海外の原料を活用した商品づくりを行うなど、「ケンコーサラダワールド」の展開を加速させてまいります。

⑤ 人材の育成

市場演出型企業としての戦略立案及び実行ができる人材やグローバルな視点で判断・行動ができる人材の育成を進めるため、現在の研修制度等を更に充実させるなど、組織・体制等の整備を進めてまいります。

市場演出型企業としての取り組みにつきましては、平成24年9月18日に公表しました「新工場に関するお知らせ」のとおり、静岡県富士市に新工場を建設することを決定いたしました。これは当社グループの成長戦略のひとつである「事業領域の拡大」の一環であり、タマゴ事業について原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで領域を拡げ、すべてに一貫した生産システムを構築するという戦略を実践するものであります。平成26年4月の稼働に向けて準備を進めております。

グローバル化の展開につきましては、まず中国事業においては浙江省杭州の新工場で生産しておりますマヨネーズ・ドレッシング、ソース類の売上を拡大させております。またインドネシア事業では、現地有力企業との合弁会社の設立手続きが完了し、平成25年4月稼働に向けて工場建設に着手いたしました。

当第2四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

①売上高

売上高につきましては、従来より進めてまいりました外食・コンビニエンスストア向け等の分野別チームの取り組みの成果や東京本社のメニュー提案設備である「Cooking Labo TOKYO」における共同試作を通じた積極的なメニュー提案が、売上高の増加へ大きく寄与いたしました。この結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、平成24年5月10日に公表しました第2四半期連結累計期間の連結売上高予想を上回る進捗となりました。

②利益面

利益面につきましては、売上高増加に向けての取り組みが、工場の稼働率アップに寄与し、利益増への大きな要因となりました。また前年同四半期における原料価格高騰の状態から原材料相場が落ち着きを見せている事もあります。当社グループの収益改善への取り組みとして、生産工程の改善や経費の圧縮等による製造コスト低減を実施してまいりました。

販管費につきましては、グローバル化への取り組みやIT投資、またブランドの浸透や企業イメージの向上を目指す費用等の事業計画を実行いたしました。この結果、販管費は増加いたしました。売上高の増加と製造コスト低減等の企業努力により吸収し、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益いずれも前年同四半期対比で増益となり、平成24年5月10日に公表しました第2四半期連結累計期間の連結業績予想を上回る進捗となりました。

当第2四半期連結累計期間における連結売上高は27,388百万円（前年同四半期比1,542百万円の増加、6.0%増）、連結営業利益は1,594百万円（前年同四半期比642百万円の増加、67.5%増）、連結経常利益は1,531百万円（前年同四半期比595百万円の増加、63.7%増）、連結四半期純利益は772百万円（前年同四半期比274百万円の増加、55.1%増）となりました。

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

<調理加工食品>につきましては、従来からの主力商品でありますポテトサラダ、パスタサラダ、ツナサラダが量販店、コンビニエンスストア、製パン向けに新規採用されたことに加えて、パンプキン、オニオン等の素材を活かした商品やフルーツを使用した商品が伸張しました。また和惣菜では外食向けにキンピラゴボウの商品が採用されたことにより、増収に寄与いたしました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>につきましては、製パン、量販店、コンビニエンスストア向けに1kg袋形態や小袋形態のマヨネーズが伸張し、ドレッシングも外食向けや西日本工場製の主力商品が大幅に増加いたしました。また新製品のソースが様々な分野で採用され、堅調に推移した結果、増収に寄与いたしました。

<タマゴ加工品>につきましては、製パン及びコンビニエンスストア向けのサンドウィッチ用のタマゴサラダや焼成パン用のタマゴサラダが新規採用されました。またコンビニエンスストア向けの茹卵の伸張により大幅な増収となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は23,237百万円、セグメント利益は1,472百万円となりました。

総菜関連事業等

売上高は量販店向けの新規採用によりポテトサラダ、ゴボウサラダの増加やタマゴ製品のキャンペーンによる増加がありましたが、一部の取引においては取引額の減少が見られました。利益面は主要な原料である鶏卵相場が前年を下回る水準で推移していることや歩留改善、経費削減等のコストダウンの取り組みにより、利益率の改善に繋がり増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は3,630百万円、セグメント利益は173百万円となりました。

新しい中期経営計画の冠であるフォースの意味には、当社グループにおける4番目の中期経営計画であることと、フォースは「力」を意味する言葉でもあり、新中期経営計画をグループ総力で力強く押し進めていく、という意味を含めております。まず『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』の初年度である当連結会計年度の目標数値を確実に達成させさせるべく進めてまいります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、32,557百万円（前連結会計年度比2,152百万円の増加、7.1%増）となりました。これは、主に現金及び預金が1,348百万円、受取手形及び売掛金が832百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、18,573百万円（前連結会計年度比1,660百万円の増加、9.8%増）となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が661百万円、長期借入金が467百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、13,983百万円（前連結会計年度比491百万円の増加、3.6%増）となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は43.0%（前連結会計年度比1.4ポイント減）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、5,365百万円（前連結会計年度末比33.6%増）となりました。当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,524百万円（前年同四半期比268百万円の増加）となりました。これは、主として税金等調整前四半期純利益1,365百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、514百万円（前年同四半期比464百万円の減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出193百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、338百万円（前年同四半期比1,265百万円の増加）となりました。これは、主に長期借入による収入1,008百万円、長期借入金の返済による支出364百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年10月29日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,017	5,365
受取手形及び売掛金	9,650	10,482
商品及び製品	1,290	1,282
仕掛品	18	15
原材料及び貯蔵品	663	859
繰延税金資産	336	332
その他	133	128
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	16,107	18,464
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,507	4,307
機械装置及び運搬具（純額）	2,905	2,706
土地	3,879	3,879
その他（純額）	288	343
有形固定資産合計	11,580	11,236
無形固定資産		
無形固定資産合計	368	362
投資その他の資産		
繰延税金資産	207	223
その他	2,168	2,300
貸倒引当金	△27	△30
投資その他の資産合計	2,347	2,493
固定資産合計	14,297	14,092
資産合計	30,404	32,557

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,997	8,659
1年内返済予定の長期借入金	786	962
未払法人税等	422	640
賞与引当金	383	390
その他の引当金	25	113
その他	3,591	3,629
流動負債合計	13,207	14,395
固定負債		
長期借入金	1,934	2,401
退職給付引当金	539	593
その他の引当金	144	149
その他	1,087	1,032
固定負債合計	3,705	4,177
負債合計	16,912	18,573
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	8,789	9,277
自己株式	△0	△0
株主資本合計	13,418	13,906
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	136	114
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△62	△37
その他の包括利益累計額合計	74	76
純資産合計	13,492	13,983
負債純資産合計	30,404	32,557

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	25,846	27,388
売上原価	19,194	19,761
売上総利益	6,651	7,627
販売費及び一般管理費	5,699	6,032
営業利益	952	1,594
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	10	9
その他	35	46
営業外収益合計	46	56
営業外費用		
支払利息	51	32
持分法による投資損失	11	82
その他	0	4
営業外費用合計	63	119
経常利益	935	1,531
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
災害による損失	7	—
固定資産除却損	11	2
投資有価証券評価損	2	—
減損損失	1	166
事業整理損失	8	—
その他	1	—
特別損失合計	33	168
税金等調整前四半期純利益	902	1,365
法人税、住民税及び事業税	405	614
法人税等調整額	△1	△20
法人税等合計	404	593
少数株主損益調整前四半期純利益	498	772
四半期純利益	498	772

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	498	772
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	△21
繰延ヘッジ損益	1	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	24
その他の包括利益合計	△16	2
四半期包括利益	481	775
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	481	775
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	902	1,365
減価償却費	494	486
減損損失	1	166
引当金の増減額(△は減少)	125	157
受取利息及び受取配当金	△11	△9
支払利息	51	32
売上債権の増減額(△は増加)	△409	△832
たな卸資産の増減額(△は増加)	△133	△184
仕入債務の増減額(△は減少)	742	661
未払金の増減額(△は減少)	△70	△63
その他	51	148
小計	1,744	1,928
利息及び配当金の受取額	11	9
利息の支払額	△51	△32
法人税等の支払額	△448	△381
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,256	1,524
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△746	△193
有形固定資産の売却による収入	11	—
無形固定資産の取得による支出	△57	△88
関係会社株式の取得による支出	△177	△241
その他	△9	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△979	△514
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	350	—
長期借入れによる収入	—	1,008
長期借入金の返済による支出	△712	△364
配当金の支払額	△283	△283
割賦取引による収入	81	294
割賦債務の返済による支出	△357	△311
その他	△5	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△927	338
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△650	1,348
現金及び現金同等物の期首残高	5,557	4,017
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,907	5,365

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	21,724	3,658	25,383	462	25,846	—	25,846
セグメント間の 内部売上高又は振替高	252	4,277	4,529	—	4,529	△4,529	—
計	21,976	7,936	29,912	462	30,375	△4,529	25,846
セグメント利益又は損失(△)	825	125	950	△4	945	△10	935

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△10百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	23,237	3,630	26,867	521	27,388	—	27,388
セグメント間の 内部売上高又は振替高	223	4,158	4,381	—	4,381	△4,381	—
計	23,460	7,789	31,249	521	31,770	△4,381	27,388
セグメント利益又は損失(△)	1,472	173	1,646	△99	1,546	△15	1,531

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△15百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。